

普通期水稻【元気つくし】・《ヒノヒカリ》管理情報 NO.1

J A 粕 屋
北筑前普及指導センター

1. 生育概況

6月中下旬の平均気温は平年より1.6℃高く、降水量は平年比54%と少なく、日照時間は平年比115%となりました。7月6日の生育調査の結果は下記の通りです。【元気つくし】《ヒノヒカリ》ともに、**草丈は平年に比べ長くやや徒長傾向、1株あたり茎数は平年並に確保されています。**気象庁の1か月予報では、九州北部の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並の予想となっています。梅雨明け後に高温傾向が続くと出穂が早まりますので、今後の管理にご注意ください。

〔7月6日現地調査結果〕（※地区や植え込み本数で差がありますので目安として考えて下さい。）

品種	田植え	1株あたり茎数(本)	平均草丈〔cm〕
【元気つくし】	6月4日	24～26	61
	6月11日	17～19	58
	6月18日	10～12	41
	6月25日	5～7	33
《ヒノヒカリ》	6月4日	15～17	53
	6月11日	14～16	44
	6月18日	9～11	30
	6月25日	5～6	26

今年は田植え期の分散化がみられています。

2. 水管理

(1) 間断かん水

水を溜めっぱなしにすると、藁などの有機物が腐る時に発生するガスによって、根腐れを引き起こします。麦稈をすき込んだほ場では田植えから20日後を目安に一時落水を徹底しましょう。

間断かん水（湛水→自然落水→湛水の繰返し）または一時落水で適度にガス抜きを行います。

(2) 中干し

中干し開始時期は田植え後30日頃からが目安となります。株の茎数（分けつ数）を確認し、1株あたりの茎数が18～20本程度確保できたら開始して下さい。

期間内のうち、7～10日程度中干しします。
「田面がやや硬くて黒い状態、小さい亀裂ができる程度」行います。

① 中干しの時期

品種	田植え	中干し期間の目安 (7～10日程度実施します)	出穂期の目安
【元気つくし】	6月4日	7月10日頃～7月19日頃まで	8月13日頃
	6月11日	7月12日頃～7月21日頃まで	8月17日頃
	6月18日	7月18日頃～7月27日頃まで	8月21日頃
	6月25日	7月23日頃～7月29日頃まで	8月23日頃
《ヒノヒカリ》	6月4日	7月12日頃～7月21日頃まで	8月24日頃
	6月11日	7月16日頃～7月25日頃まで	8月25日頃
	6月18日	7月20日頃～7月29日頃まで	8月27日頃
	6月25日	7月24日頃～7月31日頃まで	8月29日頃

注意！
近年、高温傾向が続き出穂が早まっているため、出穂期の見直しを行っています。

② 効果

- ・過剰分けつを抑えます。倒伏を軽減します。（特に元気つくしでは倒伏防止のために重要です。）
- ・地面が固まるためコンバインでの収穫作業効率が向上します。

③ ポイント

- ・土壌が黒色で、田面に浅い亀裂が入る程度を基準とします（土壌が白色になると干し過ぎです）。
- ・中干し後は、一気に深水にせず、走り水程度から始めて、徐々に湛水しましょう。

3. 病虫害補正防除

・今年梅雨入りが早く曇雨天が続いているため、**いもち病が発生しやすい状況**です。発生した場合は、発生初期に補正防除を行きましょう。また、**植えつき苗は病虫害の発生原因になるため早めに処分**しましょう。

病名	薬剤	薬量(10aあたり)	使用時期
いもち病	ダブルカットフロアブル	水140Lに140ml(1,000倍)	穂揃期まで
	コラトップジャンボP	10～13パック(500～650g)	葉いもち：初発20日前～初発時

4. 雑草補正防除

・ほ場内の雑草が多い場合は、早めの中・後期除草剤を散布しましょう。

対象雑草	除草剤名	薬量(10aあたり)	使用時期	使用上の注意
イネ科雑草 カヤツリグサ 広葉雑草	クリンチャーバスME液剤	水100Lに1000ml	移植後15日～ノビエ5葉期まで 但し、収穫50日前まで	落水状態で散布する。 高温時散布はさける。
	ワイドショット1キロ粒剤	1kg	移植後15日～ノビエ4葉期まで 但し、収穫45日前まで	湛水状態で散布する。

・広葉雑草の発生が無く、キシウスズメノヒエが多い場合は、「クリンチャーEW」または「トドメMF乳剤」を使用してください。